

E

C

O

N

O

W

A

『エコのわ』

Vol. 35

エコのわ

「あなたの暮らしと
地球をつなぐ
豊島区環境情報誌」

地球と向き合う



特集

としまの環境教育

SDGs未来都市としま



豊島区
TOSHIMA CITY

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

目指せ!
としま

ECOマスター



特集 としまの環境教育

君もECOマスターに近づける!
**ECO
クイズ**

問題
点と点を線で結んで
答えを導き出してね

今こそ、としまで環境を学び・守り・育てよう。

最近はとても暑い日が増えたり、これまでにない天気が続いたりちょっと変に感じませんか。未来のために、今「環境」について学び、考えることはとても大切です。豊島区の環境教育を体験できる今回の特集を題材に、ぜひ親子で楽しみながら学んでください!

Q.

- ① ^{みず}水をムダにしないために?
- ② ^{プラスチック}プラスチックを減らすために?
- ③ ^{生きもの}生きものの住みかを^すまも守るために?
- ④ ^{しょくひん}食品ロスを減らすために?



A.



- ① ^{みどり}緑を^{たいせつ}大切に^{する}
- ② ^{だし}出^{しつ}っぱなしをやめる
- ③ ^{のこ}こ^た残さず^{食べる}
- ④ ^{エコバッグ}・^{マイボトル}マイボトルを使う

なぜ、今、
環境を学ぶ
必要があるの?

それは… **今・未来の地球が「大変」だから**

みんなと力をあわせて一緒に地球を守ろう!

step 03 ECOマスターへ
環境について詳しくなる
環境活動をリード!

step 02 環境を自分ごとと捉える
実際に行動してみる

step 01 環境について
学び、興味を持つ

環境活動の拡大・行動の
「わ」を広げる
ゼロカーボンシティ
としま実現!



クイズの
こたえ

Q1→A2:水を30秒間流しっぱなしにすると約6ℓの水がむだになってしまうよ(エコのわvol.33より)

Q2→A4:プラスチックは資源として分別することで、新しいモノに生まれ変わるよ

Q3→A1:みどりが多い場所には、虫や鳥の家がたくさんあるよ

Q4→A3:日本では1日に1人あたりおにぎり約1個分のごはんが捨てられてしまっているよ(消費者庁HPより)

としまの取り組み紹介

見て、触れて、感じて学ぶ

校庭からはじめる環境教育

環境教育の専門家が、校庭や地域の環境を題材に体験型の授業を行います。季節毎の自然観察や標本作り、草木染めやごみの調査などの授業を通して学びを深めながら、環境保全などの行動につなげています。



VOICE



NPO法人
Nature Center Risen
岩間美代子 先生

Q.授業の中で、豊島区だからこそ行っている工夫などはありますか？

A.子ども達が毎日通う学校の校庭には、陽の光が注ぎ、雨が降り、風が吹き抜けます。耳をすませば鳥の声が聞こえ、チョウやトンボも行き交います。私たちが豊島区の学校で環境教育の授業を行うとき、はじめに子どもたちにとって最も身近な校庭の自然観察を大切にしています。「都会で自然が少ない」と思われる豊島区だからこそ、地域の生物の多様性に触れ、また、人も自然の一部だと実感することで、自然環境を守り広げていく意味を理解できるような授業を大切にしています。

Q.子どもたちにはどんな大人になってもらいたいのですか？

A.自然の中にいると、教科書の勉強とは違い、答えが一つではない場面に多く遭遇します。虫が好きな子ども、植物が好きな子どもなど様々で、その理由は簡単には説明できません。自分と他の人は違う、ということを感じ、それぞれの感性や個性を受け入れていくことが大切です。環境教育とは、身近な自然への愛着と、遠くの人々のことも大切に想う想像力を培い、自らの日々の行動を律することが出来る人を育てることです。自然と共に生きること考えられる大人になってほしいと思います。

エコのヒミツを発見しよう

民間企業等による 出前授業

民間企業にご協力いただき、実験・実習を通じて楽しく「エコ」「省エネ」について学べます。

豊島区では企業・大学・NPOなど
様々な主体とつながりながら
環境教育を進めています！

令和7年度実施企業（五十音順）

サントリーホールディングス(株) / 西武造園(株) /
東京ガス(株) / 東京電力パワーグリッド(株) /
パナソニック(株)エレクトリックワークス社 /
マテックス(株)×(株)LIXIL



サントリーホールディングス(株)
「水育」



東京ガス(株)
「燃料電池ってなんだろう？」

「ヤゴレンジャー」とともに都会で命に触れあう体験を プールにいるヤゴ等の生きものの学習

平成13年から実施され、「ヤゴ救出作戦」として親しまれている本事業は、都会でも子どもたちが生きものに触れられる自然体験の場として、各学校に定着しています。参加した子どもたちからは、最初はヤゴに触るのが怖いと感じる子もいるものの、救出後には「来年もやりたい」「たくさんとれて楽しかった」などの声が聞けました。学習指導や見守りを行う地域ボランティア「ヤゴレンジャー」を区が派遣し、授業を実施しています。



ごみ問題について考えよう

3R出前講座

(ごみ減量推進課・豊島清掃事務所)

区立小学校の4年生を対象に3R出前講座を実施しています。屋外では中身の見えるごみ収集車を使ってごみの積込体験を行い、教室でごみの分別や3Rなどを学び、ごみ問題について考えます。



としまがいちばんきれいになる日

ごみゼロデー

(環境保全課)

毎年、5月30日は「ごみゼロデー」です。豊島区の町会・商工会・学校・企業などとともに、区内の清掃活動を行います。令和6年度は、1万人近くの方々にご参加いただきました！



もっと知りたい方は以下をCHECK!

『みんなが主役』

みなさんの意見を参考に、環境計画を見直しました！

「みんなが主役 地球にも人にもやさしい 持続可能なゼロカーボンとしま」を目指し、令和7年3月に環境基本計画の改定を行いました。ぜひチェックしてみてください！



詳細はこちら

エコのわ book

『生きものとなかよし』

はじめての飼育・観察④ ヤゴ・トンボのこども-

監修 / 小宮 輝之 編 / こどもくらぶ 出版社 / ポプラ社

イラスト付きで分かりやすくヤゴについて考えられる本です。豊島区の図書館で借りることができます。ぜひご覧ください。



としまみんなでエコライフ

普段の生活の中ですぐに取り組める省エネ行動のポイントを紹介しています。他にも環境に関するお役立ち情報がたくさん載っていますよ！



詳細はこちら



環境政策課instagramを開設

環境政策課の事業やイベントの様子を紹介しています。ぜひフォローしてチェックしてみてください！
豊島岡女子学園の生徒さんが考案したキャラクターです！



詳細はこちら

<TOPICS> 生き物の「声」に耳を澄まそう！



株式会社 サンシャインエンタプライズ

左：アクアゲスト コミュニケーション部 霞見 綾さん
右：アクアゲスト コミュニケーション部 大澤 康平さん



Q.1 なぜ最近、サンゴが絶滅の危機に？

A. 近年の大規模な白化現象の影響で、サンゴが減少しています。特に2024年の夏は例年より水温が高く、水深の浅いエリアに生息するサンゴなどが大きなダメージを受けました。白化が長引くとサンゴは死滅し、サンゴ礁の生態系そのものが失われる恐れがあります。

Q.3 サンゴ以外の生き物も影響を受けているの？

A. はい。例えばペンギンはとても大きな影響を受けており、海水温の上昇で餌場が変化し数が減少しています。水族館で人気のカワウソも生息環境の悪化や乱獲、ペット需要の影響で個体数が大きく減り、国際的にも保護が求められています。

Q.2 水族館ではどんな取り組みをしているの？

A. サンシャイン水族館は2006年から「サンゴプロジェクト」を展開し、育てたサンゴを海へ還す活動など、サンゴ礁の再生を願いサンゴの保全に取り組んでいます。また、サンゴが直面している危機的な状況なども発信し、環境課題に対する啓発活動にも力をいれています。限られた環境の中でも飼育技術を高め、未来へつなぐ努力を続けています。

Q.4 私たちにできることは？

A. 自分にとって身近な生き物で構いませんので、まずは「知ること」「調べること」「学ぶこと」から始めましょう。「かわいい」や「癒し」を入口に、やがて環境や生態系の問題に気づくことができます。知ることは、環境を「自分ごと」にする大切な第一歩です！



サンシャイン水族館の取り組み

2006年よりサンシャイン水族館が沖縄県恩納村と連携し、サンゴ保全活動「サンゴプロジェクト」を推進しています。サンゴ礁の再生を願い、サンゴを殖やす活動のほか啓発活動にも力を注いでいます。

詳細はこちら



学生が
書いた！

大正大学コラム

豊島区環境清掃部は、平成22年度より大正大学と協定を締結し、環境教育関連事業を行っています。

今回は事業の一環として、学生さんに「エコのわ」35号のテーマである「としまの環境教育」についてコラムを作成していただきました。

どんなところに自然環境がある？

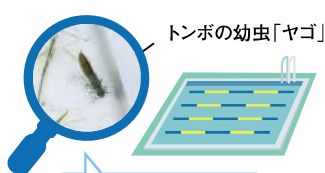
＼ 身の回りの環境を探してみよう！ ／

池袋本町電車の見える公園



地域の人の活動によって作られ、整備された自然環境

使用していないときの学校のプール



使用していない間は、野生生物の住処に！

生きものを探してここに描いてみよう！



こんなところにも生きものが!?



身の回りの自然環境と触れあってみて 社会共学生部！さん

私は実際に、池袋本町電車の見える公園で行われた植樹や木を整える活動、小学校のプールでのヤゴ救出活動に参加しました。地域の人の手によって管理されている樹木や、季節の移り変わりとともに姿を現す生きものに直接触れ、普段無意識に目にして自然環境がこうした活動によって守られていることを学びました。しかし、現在はこうした活動が人手不足や自然への興味関心の薄れによって減少してきています。多様な自然環境を守る方法は、いろいろあります。皆さんもぜひ身の回りの自然環境に目を向け、自分なりの守る方法を見つけてみてください！

ご意見・ご感想・エコ情報をお待ちしております



アンケートはこちら

豊島区ホームページよりアンケートにご協力をお願いいたします。

エコのわ アンケート で検索

左記2次元コードからご回答いただけます。(アンケート受付期間 令和8年9月まで)



バックナンバーはこちら

「エコのわ」第35号 令和7年10月1日発行

発行：豊島区環境清掃部環境政策課 〒171-8422 豊島区南池袋2-45-1

電話：03-3981-2771(直通) FAX: 03-3980-5134 メール: A0029180@city.toshima.lg.jp

掲載されている記事・写真・イラスト等の無断転載・複製を禁じます。



第35号は「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の助成事業です。